

睡眠時無呼吸症候群の治療におけるバイポーラ凝固治療

近年注目度の高まっている睡眠時無呼吸症候群の治療にもバイポーラ凝固治療は適応されています。扁桃肥大や肥厚した軟口蓋、口蓋垂を縮小させて咽頭腔を拡げる手術が一般的ですが、笠井耳鼻咽喉科クリニックでは同様の治療に加え、もう一つのユニークな治療にCelonが用いられています。「最近増えているのは、CPAP（経鼻的持続陽圧呼吸療法）を行う患者さんの鼻閉を改善するためのバイポーラ凝固治療です。入院検査ができる施設が増えてきたことで、睡眠時無呼吸症候群と診断される患者さんも多くなりましたが、診断を受けてすぐにCPAPを始めるというケースもよく見られます。しかし鼻閉があるとCPAPがうまく使えない、高い圧力をかけなければならないという事態を招いてしまいます。そんな症例に対して鼻を通してくださいという依頼がクリニックに舞い込んで来るのです。」

こんな患者さんに対しては、Celonによる下鼻甲介の減量手術を施すことで鼻閉を改善し、よりスムーズなCPAPの治療につなげています。このような適応は今後増えてくるだろうと笠井先生は見ています。「睡眠時無呼吸症候群の患者さんには鼻の通りの悪い方が相当数含まれていると考えられますので、検査施設が増えれば増えるだけ鼻閉の改善へのニーズは高くなっていくでしょう。できれば検査の段階で鼻も診ていただいて、鼻閉があればまずその治療から始められることが大切だと考えます。」



大人の患者さんが多いのが特徴。この診察室を訪れるのは、周辺で働く方が多い

プローブの細さ、滑らかさがスムーズな手技を助ける

鼻閉に対する手術を中心にCelonを使用されている笠井先生は、その理由についてこんなメリットをあげられました。「Celonはプローブが非常に使いやすいことが利点です。一つは先端が細いので穿刺がしやすいこと、さらに軸がなめらかな構造でひっかかりがありませんので、焼けた組織がこびりつくことはありません。一度引き抜いて再度穿刺する際に、組織をぬぐい取ってきれいにするような手間がかかりませんので、手技がとてもスムーズに行えます」施術者側にとって使いやすく、患者さん側にはより確実な治療効果をもたらすCelonは、今後、耳鼻咽喉科領域での活用が期待されます。現状では患者さんにとって馴染みの薄い治療であることから、どのように啓蒙や説明を行っていくかが重要なポイントであろうと思われていますが、この点に関して、笠井先生はホームページでの情報発信を中心に、積極的なアピールを始めています。



Celon本体とプローブ。プローブの細さがスムーズな手技を助ける

バイポーラ凝固治療に関する詳しい説明をホームページに掲載

冒頭でも触れたように、笠井耳鼻咽喉科クリニックでは各種疾患と治療法に関する非常に詳しい情報をホームページから発信しています。そこに設けられた「バイポーラ治療の適応」の項目では、各適応疾患と外来手術の実際、治療効果について解説。術後の経過写真や図が多用され、この治療を初めて知る人にも具体的に理解することができます。

このホームページについて「レーザーにしてもバイポーラにしても、患者さん側にあまり情報のない時期に始めたものですから、当初



所狭しと貼られた、新聞・雑誌の記事。笠井先生はメディアでもおなじみの顔だ

はメールでの問い合わせが1日に20~30件ほどあったんです。それに対する答えをまとめて、編集したものを掲載しているだけなんですよ」と笠井先生は謙遜されますが、未知の治療に様々な不安と疑問を抱く患者さんにとって、治療費までもきめ細かく開示された情報源はたいへん心強いものに違いありません。

さらに、実際の治療前には治療法や注意点が記載されたパンフレットを用いて説明し、理解を促します。麻酔注射が必要なことや術後2か月程度は痂皮が付着して少し苦しい状態になることなど、バイポーラ治療特有のデメリットについても十分に納得してもらった上で、治療が進められます。このような段階を経て患者さんは、不安感よりもどんな治療が受けられるのかという期待感を大きくして手術に臨まれるのだそうです。



最後にこれからのバイポーラ凝固治療の普及について笠井先生にお考えをうかがいました。「レーザー治療に経験を積まれた先生方がレーザーでは少し物足りない、もう少し高い効果が欲しいと感じられる症例に対して、Celonをはじめとするバイポーラ治療は十分な効果をもたらす治療としてたいへん意義のあるものといえるでしょう」